

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇しておりました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。今シーズンは、50 週から 5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

2020 年第 7 週の定点当たり報告数は 7.49（患者報告数 37,198）となり、前週の定点当たり報告数 9.04 より減少しました。5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

都道府県別では北海道（16.38）、石川県（12.15）、大阪府（11.62）、**沖縄県**（10.26）、滋賀県（10.23）、愛知県（10.13）、岩手県（9.82）、兵庫県（9.53）、京都府（8.96）、福井県（8.89）、奈良県（8.64）、群馬県（8.47）、岡山県（8.27）、長野県（8.21）、埼玉県（8.19）、新潟県（8.08）、愛媛県（7.85）、千葉県（7.82）の順となっていました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、直近の 5 週間（2020 年第 3 週～2020 年第 7 週）では AH1pdm09（82%）、B 型（17%）、

AH3 亜型（1%）の順でとなっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>) をご参照ください。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況（長崎県感染症情報センター報告より）：

2020 年第 7 週（2/10-2/16）のインフルエンザ報告は、長崎市（6.65）、長崎県（5.7）で、第 6 週（2/3-2/9）長崎市（12）、長崎県（11.63）と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しました。

いずれも流行レベルの指標 1 を超えておりました。50 週以降の報告数が 10 以上（注意報レベルの流行）となっておりましたが、6 週までで注意報レベルの流行がおわりました。

長崎市は、40 週、41 週、42 週と流行レベル（1 以上）となりましたが、41 週をピークに減少し、43 週では 1 未満となりました。しかしながら、44 週では、0.94 と再度増加し、45 週で 1 を超えました。以後、流行レベルを維持しています。

◎長崎県は、39 週以降 1 未満となりましたが、長崎市が 40-42 週で 1 を超え、流行レベルとなりました。43 週で 1 未満となりましたが、45 週で 1 を超えました。今シーズンは 50 週から 6 週（2/3-2/9）まで報告数が 10 以上（注意報レベルの流行）でした。今後も注意が必要な状況が続いています。

（長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1 部改変）

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。